

家庭・地域と 連携融合した 「夢育の学び舎」の創造

東京都三鷹市立第四小学校

やま きしげる

山本茂

1 主題設定の理由

子供たちがもっと主役になれる時間と空間をどう保障するかが、これからの学校づくりの重要な課題である。多様な教育活動を学校単独ではなく、家庭や地域と共に創り出す開かれた学校づくりを推進することで、子供たちの「生きる力」を育めると考えた。単なる教科研究の範疇を越えて、家庭や地域の方々の良識と専門性を教師のパートナーとして位置づける柔軟な教育活動を多方面で実践する。

2 研究仮説

家庭や地域のいろいろな人・もの・こととふれあう時間と空間があり、それらの活動や学習を通して、よろこびを積み重ねられる時間と空間がある「コミュニティスクール」ができれば、子供たちの夢を育む（夢育）ことができ、社会の変化に対応できる力（生きる力）が育成されるだろう。

3 研究実践の具現化のために

三種類の「教育ボランティア」を募集した。一つ目は、CT（コミュニティティーチャー・地域専門家）で、専門的な知識や技術をお持ちの保護者や地域の方々に、特に総合的な学習の時間の先生として活躍して頂くボランティアである。二つ目は、SA（スタディアドバイザー・学習支援者）で、各教科の授業の指導補助として活躍して頂くボランティアである。校外指導等から習熟度別指導まで幅広く対応して頂いている。三つ目はきらめきボランティアである。ご自分の趣味や特技を生かして、余裕教室等で指導して下さる課外の選択クラブ活動（きらめきクラブ）のボ

ランティアである。

現在、130名以上の方に登録頂いている。

4 各分科会の実践内容

(1) 第一・むいく分科会…「総合的な学習の時間の充実」では、CT（地域専門家）を積極的に活用し、課題解決と体験を重視した。「情報活用能力の育成」では、低学年からの情報機器指導計画を作成し、インターネットも積極的に活用している。教師のスキルアップも課題で、毎週朝10分間研修を持った。さらに、インターネット上に会員登録制の「学校・家庭・地域連携イントラネット（夢育ネット）」も実験的にスタートさせた。今後は、授業風景等の動画もライブ配信できるようになる。

(2) 第二・ふれあい分科会…「心の教育の充実」では指導法を工夫した道徳の授業を実践し、道徳性の実態調査も実施した。ボランティア活動を系統的に位置づけたり、エンカウンターを取り入れた学級活動を実施したりと道徳教育全般の充実を図った。「基礎基本の確実な定着」では、学習内容が難しい単元では習熟度別に複数のSA（学習支援者）の方に授業に入ってもらい、きめの細かい指導を心がけた。また、子供たちの自主的な学習時間「チャレンジタイム」も新設した。

(3) 第三・きらめき分科会…「弾力的な時間割編成」では90分連続の教科組み合わせ時間割を選択し、段階的にノーチャイム制を導入した。「課外の選択クラブ活動（きらめきクラブ）の開設」では、いぎりすやクラブ（英会話）、ソフトバレークラブ、アップル組（読み聞かせ）など、17のクラブが運営している。現在では教師が会議中であっても、各曜日とも、3～4つのきらめきクラブがやっている状態である。職員室横に調整・打ち合わせ用のスタッフルームも新設した。

5. これからの学校像

開かれた学校は、子供たちにいろいろな
(44ページ右下段へつづく)